

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	鹿島市立東部中学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>・学校評価アンケートの回答結果から、生徒は充実した学校生活を送っていると考えられる。教職員が生徒一人一人の状況等に応じて、教育活動に取り組んでいる結果であると思われる。様々な課題に対して、学年や該当の校務分掌担当等がいち早く情報共有や共通理解を図り、組織的に対応した結果、明朗で落ち着いた学校づくりにつながっている。約80%の生徒が自分のことを肯定的にとらえているが、今後も諸行事や生徒会活動等を通して、自己肯定感や自己有用感を高めるための取組を継続したい。</p> <p>・全国学力・学習状況調査や県学力・学習状況調査の結果では、教科によっては県平均との差が縮小するなど、成果が見られた。今後も学力向上対策コーディネーターや研究主任を中心として、主体的対話的な深い学びの充実に向けて、授業の工夫改善を進め、家庭学習の質的・量的改善を目指して支援していく。</p> <p>・地域の方を講師としてお招きしたり、生徒がPTAと一体となって地域におけるボランティア活動を行ったりするなど、地域とともにある学校を目指した活動を実施することができた。地域との連携を今後も深めていきたい。</p>

2 学校教育目標	郷土を愛し健やかな心身を育みともに伸びる STEP UP!! あいさつ (A) 掃除 (S) 勉強 (B) プラスワン
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>1. 健やかな心身の育成（道徳教育及び、人権・同和教育の充実、特別支援教育の充実、部活動の再編と充実、生活リズムの確立と食育の充実）</p> <p>2. 学力の定着と向上（学習規律の定着とわかる授業づくり、一人一台PCの効果的な活用とデジタル教材を用いた学力定着の工夫、主体的に学ぶ生徒の育成）</p> <p>3. 協働してより深く学ぶ生徒の育成（対話によって学び合う生徒の育成、個に応じたキャリア教育の充実、行事や体験活動による実践力の育成）</p> <p>4. 人間関係を形成する力の育成（気持ち良い挨拶ができる生徒の育成、無言排除の徹底による心の育成、支持的風土のある学校づくり）</p> <p>5. 地域とともにある学校づくり（開かれた学校づくりの推進、地域やPTAとの連携）</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目				中間評価				最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	学校関係者評価			
									意見や提言			
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した生徒85%以上	・全教科半分以上の授業で「話し合う活動」を設定する。	A	・校内研修の取組として、話し合い活動を積極的に進めている。数値目標を上回る89.5%の生徒が肯定的な回答をしている。	A	・話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うと回答した生徒は、93%であり、前回の結果を上回っている。	A	・学力向上通信にも書かれている深い学びにつながる話し合い活動が取り入れられている。安心して学べる環境にあるようだ。	・学力向上対策コーディネーター 研究主任		
	○指導方法の改善・充実	○授業が「分かる」と答える生徒の割合90%以上	・主体的に学ぶとする生徒の育成にむけて、ICT研修に取り組みその活用を取り入れた授業に取り組む。 ・授業改善のためにICT研修を行う。	A	・校内研究の取組である教育支援アプリの効果的な活用研修を行い、日々の授業で実践している。数値目標を大きく上回る91%の生徒が肯定的な回答をしている。	A	・校内での授業研究会を通して教育支援アプリの効果的な活用を日々実践している。授業が「わかる」と答えた生徒の割合は95%であった。	A	95%の生徒が授業がわかると回答している。ICT活用とともに生徒の興味・関心がいかにされる指導がなされている。	・学力向上対策コーディネーター 研究主任		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・ふれあい道徳を実施する。 ・生徒会主催での人権集会等を開催し人権意識を育む。	A	・4月にふれあい道徳を実施した。また、各学年の生徒の実態に即した授業を計画的に実施しており、道徳に関する生徒の肯定的な回答は平均94%であった。 ・人権集会を計画的に実施し、98%の生徒が、人権に関して肯定的な回答をしている。	A	・人権集会や平和集会を実施し、他者への思いやりや気持ち、豊かな心を身に付ける教育に取り組んだ。生徒が仲良く笑顔で過ごしていると回答した保護者は90%であった。思いやりや気持ちを忘れずに生活できていると回答した保護者は84%であった。	A	・全体的に落ち着いた学校生活が過ごせており、十分な教育活動ができていると思われる。ただ、気になる生徒への声かけを行い心の安定を図ってもらいたい。	・道徳教育推進教員 ・人権・同和教育担当者 ・各学年主任		
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○職員がいじめ問題への対応や取組に対する、生徒評価、保護者評価で、90%以上	・毎月、生活アンケートを実施し、生徒指導主事を中心に全職員で生活面での問題の早期発見・早期対応につなげる。	A	・全ての生徒が肯定的な回答をしている。今後もタブレット端末を用いて生徒が安心して記入できる手立てを取り、いじめ等の早期発見と対応につなげる。	B	・東部中では、いじめの対応によく取り組んでいると回答した保護者は71%であった。未然防止については、今後改善する必要がある。	B	・生徒が安心して相談できる体制整備や立ち向かっていける心の教育をお願いします。また、失敗を反省し学びの機会と捉えられるような支援をお願いします。	・生徒指導主事(各学年生徒指導担当者) 各学年主任		
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した生徒の割合が80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」という肯定的な回答をした生徒の割合が80%以上 ○「学校が楽しい」と回答した生徒の割合が90%以上	・構成的グループエンカウンター等を利用して自己肯定感や有用感を高める。 ・地域の教育資源や人材をいかした体験活動や講演会を実施する。	B	・総合的な学習等の時間に、地域の方を講師として招聘し、講演会等を実施した。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した生徒の割合は、94%であった。 「将来の夢や目標について」回答した生徒は76%であった。「学校が楽しい」と回答した生徒の割合は、88%であった。将来の夢や目標を持つことへの積極性を高めていきたい。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した生徒は前回より3ポイントアップである。「学校に行くのは楽しい」と回答した生徒の割合は4ポイントアップであった。将来の夢や目標を持っているについては、前回とかわっていない。少しずつ夢や目標をもちその実現に向けて取り組んでいる。	A	・92%の生徒が「学校は楽しい」と回答していることは、すばらしく、安心である。	・進路指導主事		
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」と回答した生徒の割合が80%以上	・フォーサイトを利用し、自己管理できる力を養う。 ・学校HPや各種たよりを発行し、保護者のに生徒の様子を積極的に知らせる。 ・生徒を安全に登下校させるため、定期的ルールやマナーについて指導を行う。	A	・集会時や、日常的に校内を巡回しながら安全指導を行った。自転車の乗り方について、地域住民から苦情があったが、自転車通学生に注意喚起を行った。今後も定期的に安全指導を行う。 ・91%の生徒が「健康に良い食事をしている」と回答した。	A	・生徒の登校や下校の安全指導を行っている。安全指導を行った。生徒の割合は85%であった。生徒自身も危ない目に合わないよう自分の行動を心がけていると意識している生徒は90%であった。安全に対する資質・能力は育っている。	A	・「健康に良い食事をしている」に肯定的回答は91%で数値目標を大きく上回っている。さらに自己管理能力が育つよう支援をお願いします。	・安全教育担当 ・食育推進担当者 ・栄養教諭 ・保健主事		
	○安全に関する資質・能力の育成	○生徒の交通事故を0(ゼロ)にする										
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・毎週水曜日を定時退勤日、部活動休業日とし、時間外に行事等を入れない。 ・業務内容を精選する。また、業務を分担し、一人に過重負担がないようにする。	B	・時間外在校等時間の上限を超えている。 ・電話での保護者対応の時間を制限したこと、時間外在校等時間が昨年より減っている。時間を意識して業務に取り組むことを意識する教員が増えている。	B	・時間外在校等時間の平均は50時間程度まで下がってきている。職員アンケートからも業務の効率化を図っている職員の割合は90%であった。 ・年次休暇取得日数は平均8日であった。	B	・学校だけでできることは限界があり、部活動の地域展開など行政のほうからの改革を推進してほしい。お若い年休等が取りやすい体制づくりが必要だと思います。	・教頭		
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員の割合が75%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・支援会議の開催、関係者間での情報共有	A	・外部講師を招聘して、特別支援教育の実践的な研修を実施した。また、支援会議を開催し、協議内容を全職員に周知して情報を共有し、全職員で共通実践を行っている。	A	・特別支援教育の研修会を実施したことで個別の支援計画及び指導計画について理解が深まった。また、巡回相談を活用したことで支援方法についての共有がしやすくなった。	A	・困り感を持つ生徒について、職員間の共通理解が図られていることが何よりです。それぞれの先生方が、一人ひとりの困り感に寄り添った支援を心掛け本人の成長につなげて欲しいと思います。	特別支援教育CO		

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価				最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	学校関係者評価			
									意見や提言			
○生徒が主体となって活動する場の設定	○「あいさつ」や「掃除」の充実 ○すべての生徒に出席を与え、承認と称賛の場づくりの工夫	○生徒が「元氣よくあいさつができています」と答える保護者の割合が80%以上 ○「掃除がきちんとできている」と答える生徒の割合が90%以上 ○「生徒が主体的・協働的に関わる教育活動を設定できた」と答える教職員の割合が80%以上	・掃除のときも職員が随時指導し、その都度生徒を評価する。 ・行事等で生徒が主体となって活動できる場の設定の工夫をする。	A	・全職員が随時指導をし、清掃指導を行った。99%の生徒が「掃除がきちんとできている」と回答した。 ・90%の職員が行事等で生徒が主体となって活動できる場の設定をしたと回答している。	A	・「清掃」への意識の高さが生徒、職員ともアンケート結果からわかる。生徒は98%であり、職員は、100%できている。 ・生徒が主体的、協働的に関わる教育活動の設定ができた98%の職員が回答している。	A	・挨拶や掃除への生徒の取組は職員の姿勢を写す鏡ともいえる。	・清掃指導 ・生徒指導主事		
	○地域とともにある学校づくり	○「地域に誇りを持っている」と答える生徒の割合が80%以上 ○「学校は積極的に情報を発信している」と回答する保護者の割合が90%以上	・ボランティア活動に積極的に参加させる。 ・保護者が行事に参加しやすい日程を設定したり、内容を工夫する。 ・学校だよりや各種たよりを使って積極的に情報発信を行う。	A	・学校だより、各種たよりを使って積極的に情報発信を行った。 ・生徒による地域行事への積極的な参加があった。また、PTAと生徒合同による地域清掃活動を行った。 ・89%の生徒が「地域に誇りを持っている」と回答している。	A	・ボランティア活動への参加率が19ポイント、さらに地域行事への参加率も3ポイントアップしている。地域への誇りが高まってきている。 ・地域やPTA活動に学校が協力的に取り組んでいると答えた保護者の割合は88%であった。職員の回答は100%であった。 ・学校が積極的に情報を発信していると回答した保護者は90%であった。	A	・3地区共にすばらしい特色があります。地域資源を生かした活用した教育活動を進め、地域自慢の東部中学校になって欲しいと思います。	・ボランティア担当 ・教頭 ・教務主任		

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・学校評価アンケートの回答結果から、生徒は充実した学校生活を送っていると考えられる。生徒会を中心に主体的に行事に取り組む姿勢が見られた。</p> <p>・全国学力・学習状況調査や県学力・学習状況調査の結果では、授業と家庭学習との連携と課題が見られる。今後も学力向上対策コーディネーターや研究主任を中心として、主体的対話的な深い学びの充実に向けて、授業の工夫改善を進め、家庭学習の質的・量的改善を目指して支援していく。</p> <p>・地域ボランティア活動には積極的に取り組んでいる。地域とともにある学校を目指した活動を実施することができた。地域との連携を今後も深めていきたい。</p> <p>・いじめ対応への保護者の肯定的評価は71%にとどまり課題の要因を精査し、次年度につなげていく。</p>
--------------------	--